





数十年前—
魔法の精霊に選ばれた
少女たちが現れた。
人々は彼女たちを
「魔法少女」と呼んだ。

彼女たちは魔物と
戦う使命を背負い、
世界を守り続けていた。

幾年にも及ぶ激戦の末
魔法少女たちは
すべての超常的脅威を
打ち滅ぼした。

世界は再び平和を
取り戻し

魔法少女たちもまた
静かに表舞台から姿を消し、
やがて人々の記憶からも
薄れていった—

ぼくの名前は新田悠真。
どこにでもいる
ごく普通の中学生。

おおおっ！
「イエロー」のSR
ホロカードだ！！

ただひとつ普通
じゃないのは—
ぼくが重度の魔法少女
オタクだったこと。

十年前に活躍していた
魔法少女のグッズを
ひたすら集めている。

ちょうど裏ルートで
入ったんだよ！
ラッキーだったな
新田くん！

この絶版シリーズ
ほぼコンプしてるん
じゃないか？

ほんと
「イエロー」好き
だよなあ…

当然でしょ！

特に——
魔法少女イエロ……

ぼくは魔法少女
「月見袖月」の
ガチ勢なんだ！

ぼくは毎日こんな風に、
オタク趣味を満喫する
日々を送っていた。

そんな日常が、
このまますっと
続くと思っていた。

あの日までは……



だけど神様はぼくに：
甘くて、そして残酷な
冗談を用意していた。



ぼくの最推しの
魔法少女——
月見袖月が、

まさか……
ぼくの継母に
なるなんて。

今日から月見さんが
お前の新しい母さんだ

こんばんは
月見袖月といひます

これから
よろしくね！



元魔法少女でありながら、
月見さんは
完璧な主婦だった



家事も料理も完璧で、
本当に理想の母親
そのもの…

だけど、
ぼくにとって
彼女は…

今でも変わらず
心から崇拜している
「月見袖月」だった





しかし、日常の中で
見せる無防備すぎる
距離感は、

何度も何度も
ぼくの理性を
削っていく。



ぼくは必死に
抑え込んでいた。

胸の奥で膨れ上がる
「母親」という枠を、
とうに越えてしまった
感情を…

あら？

そして、
理性が少しずつ
崩れ始めたその時…



ついに—
事件は起きて
しまった…



ううるさいな！

うわーめっちゃ
死んだ顔してんじゃん！
また担任にガツツリ
怒られたんだろ？



次もこんな点数だったら
保護者を学校に呼ぶからね！

最終通告
されたんだろ？
少しは自重しろよ

うう…
わかってるよ！



そりゃ最近あんなに
成績落としてりゃ
怒られるってー

オタク趣味に
ハマりすぎ
なんじゃね？



絶対にうちに
来させるわけ
にはいかない！
何があっても…！

継母が
元魔法少女だなんて
みんなに知られたら
終わりだ！

？

絶対に
バレたくない…



毎日継母とセックスするせいで…

はあ…
マママ…

んん♡
もう…

帰ったばかりなのに…
しょうがないわね♡

ぷるん

ぷるん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

こんなんじゃあ、

全然勉強に集中できないんだよお…!!

興奮しすぎね…
困った子だわ…♡

ママの…
腔内…
気持ち…
良すぎるっ…

はあ

はあ

はあ

だけど、

ほくの中の
「魔法少女オタク」の
執念は、
満たされるどころか

どんどん
膨れ上がっていった

あ

かく

んお

かん

あ

あ

んあ

はあ

ほた

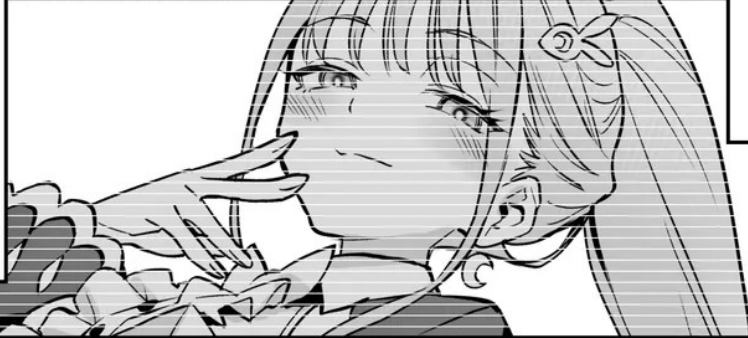
ほた

ずん

ずん

かつての「魔法少女」
としての彼女の姿
ばかりだった。

目の前にいる継母を
見ていると、
頭の中に浮かぶのは…





だって…ママの…
中が…気持ち
良すぎるから…

全然我慢
できないよお！

またそう言って
誤魔化そうと
する…



うう…
おちんちんが
吸いつかれて
抜けないよお…

ぬほっ
ニニニ



後始末が
大変なのよ…

この後すぐ
晩ご飯も作らないと
いけないのに…

悠真は悪い子だわ…
甘やかしすぎたのかしら？

ごめんなさい…
もうしません…

ぬほっ
ニニニ

ト
ト



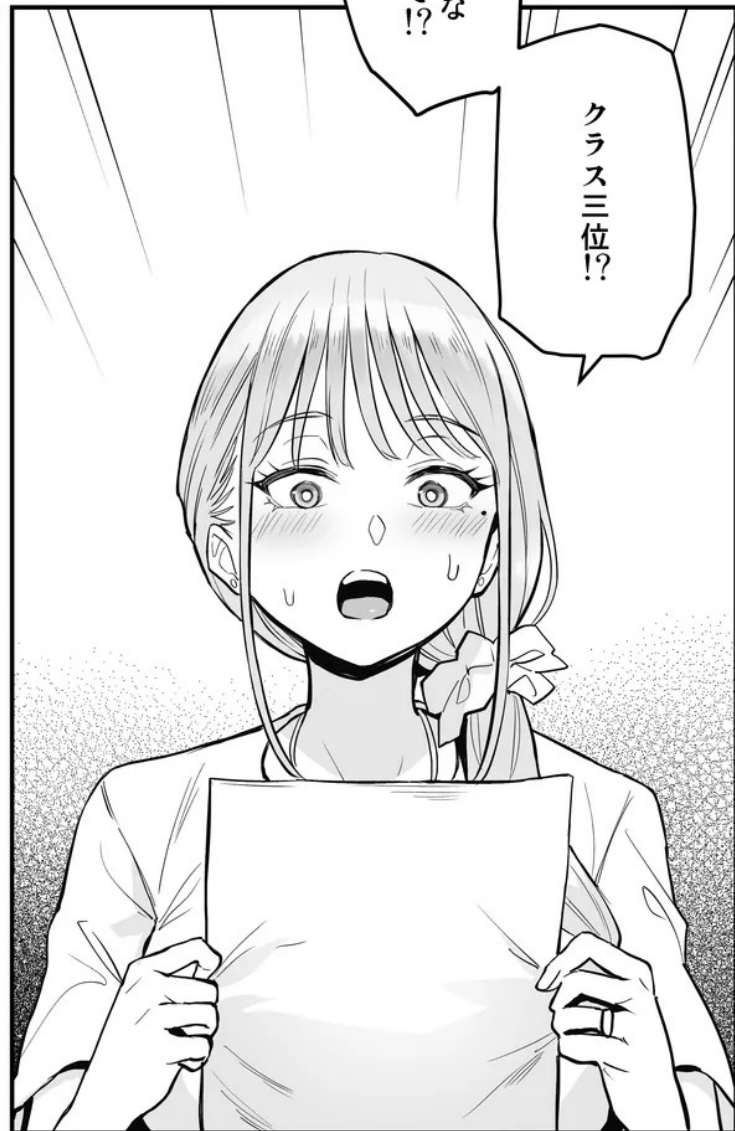




テストまで残り三週間! どう考えても五位以内は難しいわよね…

魔法少女の姿のためにっ!!

ほ、本当に!?



な…ななな何ですって!?

クラス三位!?

悠真…すごい! どうやったの!?

はは…この二週間死ぬ気で勉強しただけだよ…



…正直初日でもう心折れそうだったけど

うわあああ! 内容多すぎてまじ無理っ!

全然理解できねえ!!



月見さんの
魔法妖精!?

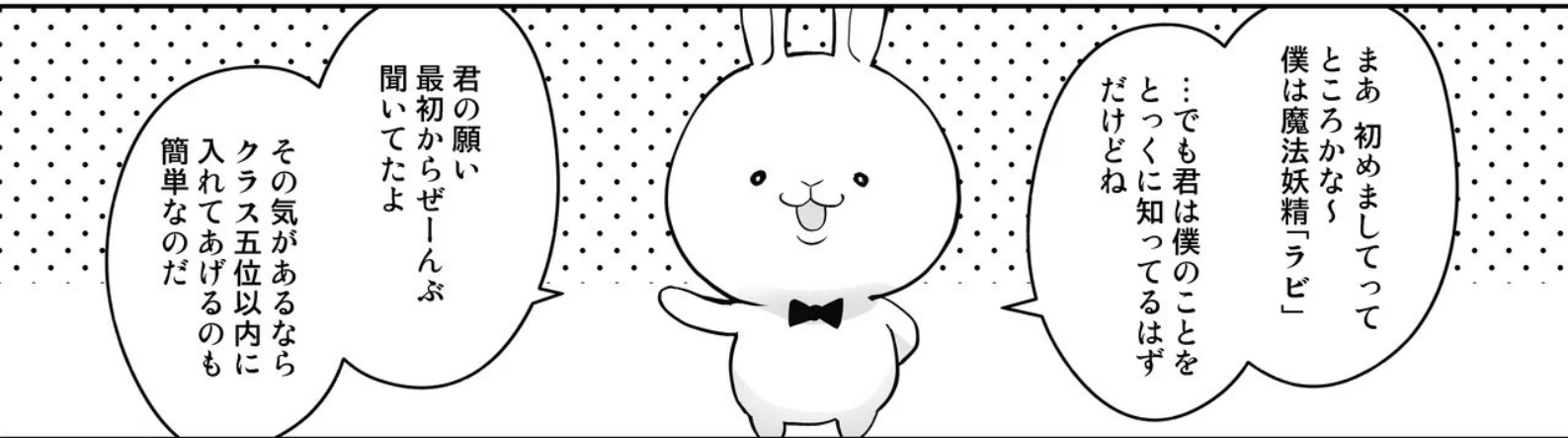
あなたは…

うわっ!



少年 手助けが
必要かい?

このままじゃ
五位どころか
赤点脱出すら危ない…



まあ 初めましてって
ところかな
僕は魔法妖精「ラビ」
…でも君は僕のことを
とっくに知ってるはず
だけだね

君の願い
最初からぜんぶ
聞いてたよ

その気があるなら
クラス五位以内に
入れてあげるのも
簡単なのだ



それで?
僕の力借りる?

なんか…
…全然まともな
理由じゃないな…
まあ…人のこと
言えないけど



ほ、本当…?
でも…どうしてこんな
下心まみれなぼくを
助けてくれるの?

興味があるんだ—
月見が再び
力を使った時
何が起きるのか…



どうやって
勉強の手伝いを?

でも…



一度受け入れたら—
もう後戻りは
できないよ?



もちろん!
断る理由なんて
ない!



…すごく嫌な
予感がする



それに僕の
知識補助を
加えれば

教科書の内容を丸ごと
頭に叩き込めるし
万事解決

試験対策にも
十分使えるはずだ



簡単さ
精神強化魔法で集中力を
200%まで底上げするよ

本来は魔法少女が
強敵と戦うための
技だけど…



う…

ママ…
約束だよ
魔法少女の姿…



三度と味わい
たくない…

あの二週間は
地獄だった

脳と手だけは
まったく止まら
ないんだ…

体はボロボロ
なのに…



…わかったわ



母親として…
約束は
破れないわ…

………



おお…



は…初めての
本物の月見袖月の
魔法少女Ver.!!

今さらこの体で
魔法少女はやっぱり…
恥ずかしい…

ジロジロ
見ないでよお…

この衣装も
数年ぶりかな…
かなりキツイ…



夢が叶った!!
やばすぎ…
マジ感動…!!

もう…
大袈裟だよ…



けどそんなに喜んで
くれるのなら
ママも嬉しいわ♥

今日はすこし
サービスして
あげようかな

シュルルル





悠真の元気すぎる
おちんちんにサービス
してあげちゃう…♥

悠真が大好きな
このおっぱいで…



いい子に
座っててね〜



この感触は…
気持ち良すぎる！

丸ごと
つつみ込まれた…

まるで違う人格に
なったような…



うおお…やわっ！

魔法少女の姿になった
ママは…





悠真のここはまだ
元気いっぱいね♥

ピクピク
してる…♥



舐めるだけで…
興奮がおさまらなくて
脳が痺れる…



ふう…
ツーンとくる
濃厚な匂い…♥



は

は

悠真の
おちんちんを
食べさせてね♥

うずきが
抑えられない
ママの
身体にも…

次は…

鋭い目付きはまるで
捕食者のようだ…



へっ!?!
わあっ



なんか…
変身後のママは
いつもと全然違う…!



変身したママ...
雰囲気が変わって
すごく積極的にな...

久しぶりの
おちんちん... 腔内で
びくびくしてるう

ああ...まだ
おつきくなるう

おまんこの奥深くに
悠真のおちんちんが
全部入ってきた...

すごい

ん...
はあ

だめだ...ママ
...腰振り激しすぎ

もつと...
欲しい...

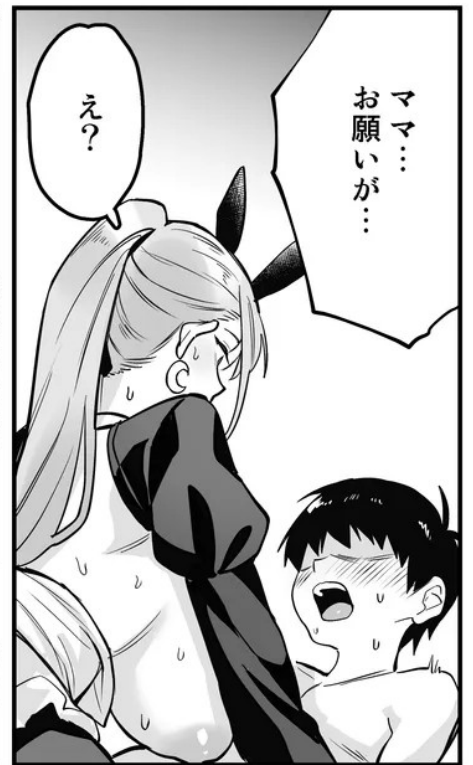
はあ

はあ



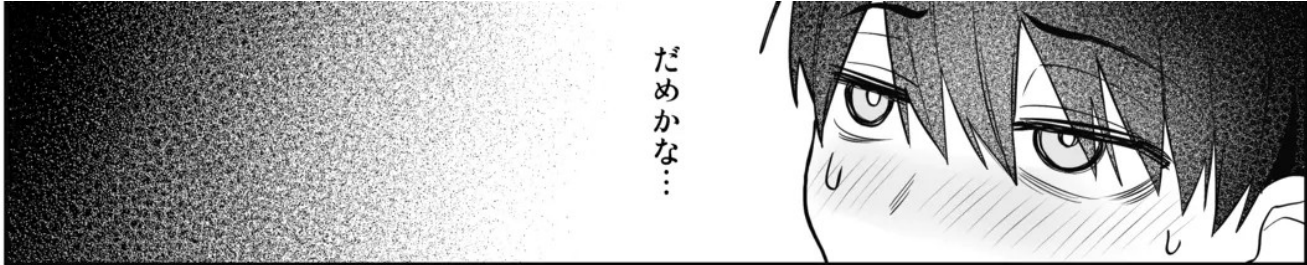
一度だけで
いいんだ...

魔法少女の
変身セリフを
直接聞きたい!



ママ...
お願いが...

え?



だめかな…



勇気と希望

誠実なる心を
我に与えたまえ

夜空にきらめく
金色の月光よ

月のウサギが
願いたもう



!?



優しさを力に変え
笑顔が
闇を照らすように

ひん
ひん

ひん
ひん

魔法少女
月見袖月

月光の輝きにより
変身完了!



おおおおおお
このポーズ
このセリフ
全てが同じ

いや違う!
記憶よりも
神々しい!



次は許しません
からね



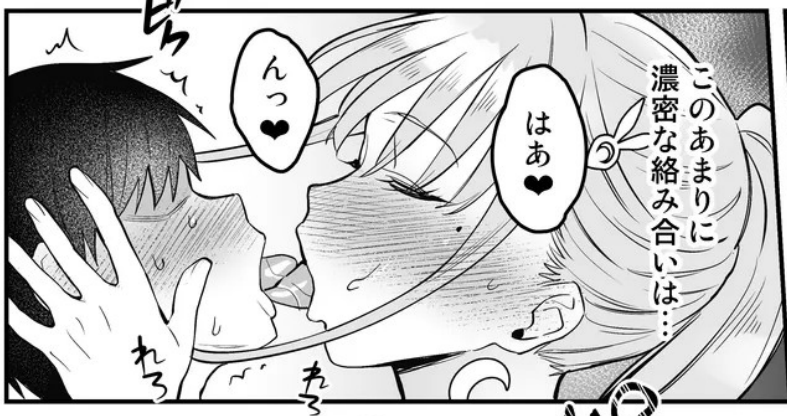
ぽっ
ぽっ

あのセリフ
とっても恥ずかしいん
ですよ！

うっ…

今回は特別に
してあげたん
ですからね！

まったく…
もう二度と
やりませんよ



んっ♡

はあ♡

このあまりに
濃密な絡み合いは…



んむ♡

まるでぼくの魂まで
一緒に吸い取られて
しまいそうだ…！！



すぽ

飲み込まれそうだ…

すぽ

ぽん

ぽん

すぽ

タマタマにある
精液ぜんぶ絞り
出しちゃうわよ♡

ー〇ギニ



大丈夫よ♡
ママの
オマンゴの奥に…

好きだから
注いで…!



ほたほた
ほたほた
ほたほた

ママ…
ぼく…ぼく…
本当に…
もう我慢
できない…



はあ♡

えろ



射^で精^りるっ!

あああーっ!

うっ…うあっ♡♡♡

イク

ほっ

イクッ♡イクッ♡

イツちやう♡

どお
どお
どお

どお
どお
どお



溜め込んでた疲れが
一気に限界を迎えた...



何日も無理をして
超人みたいな集中力を
使い続けた結果...

何度も
射精したおかげで...



まだ全然
満足してない...

でもね悠真...まだ
休んじゃダメよ♥

ママは...
もっといっぱい
気持ちいいこと
したいの♥



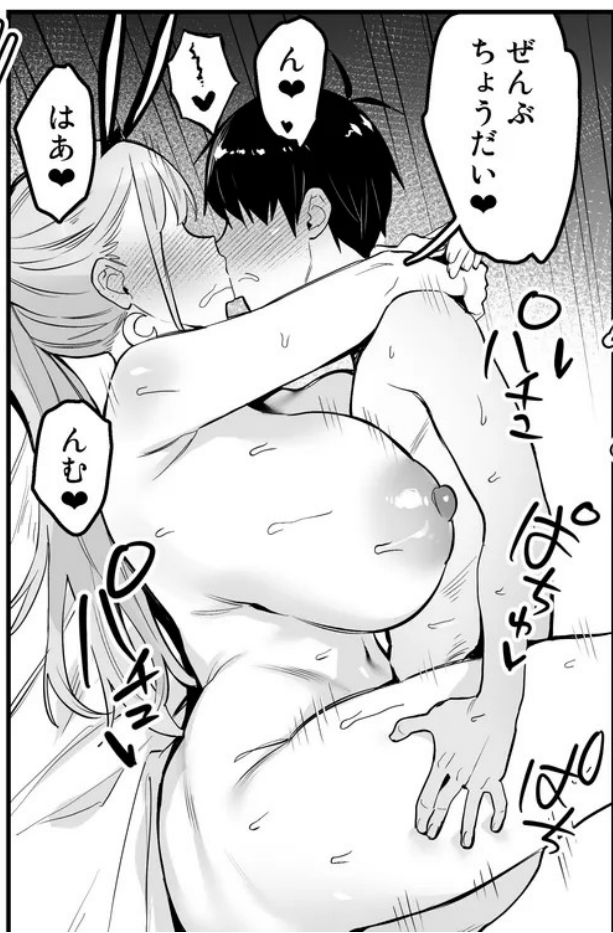
でもママの
目は...

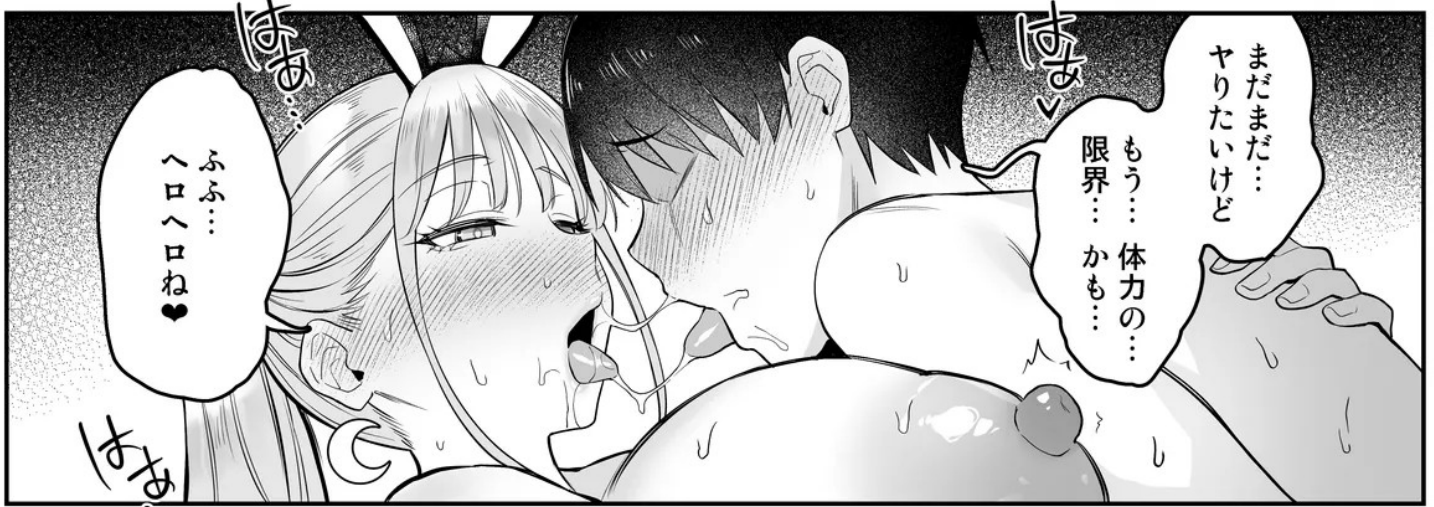
ああ...
ママの中に
こんな感じっばい...

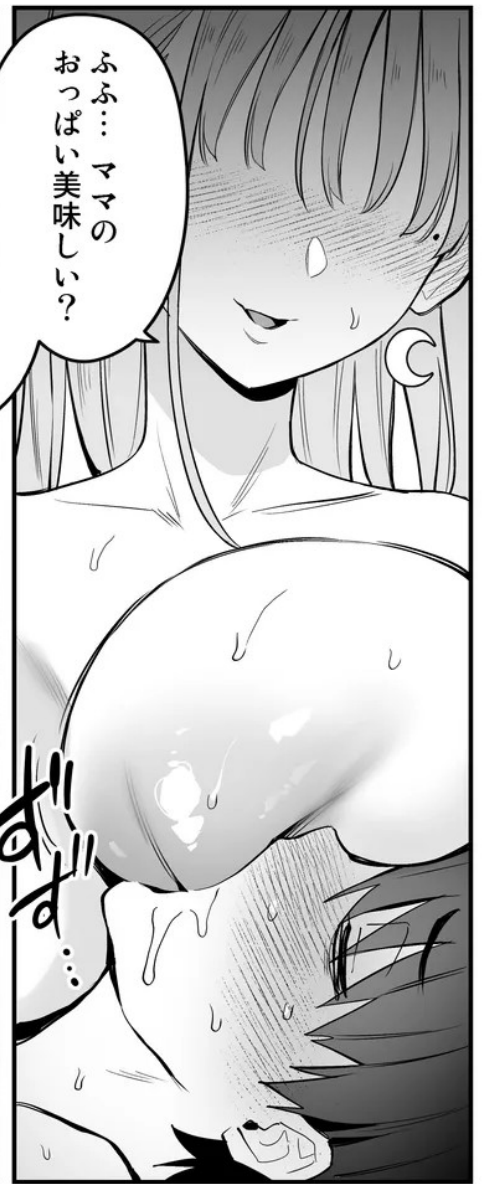


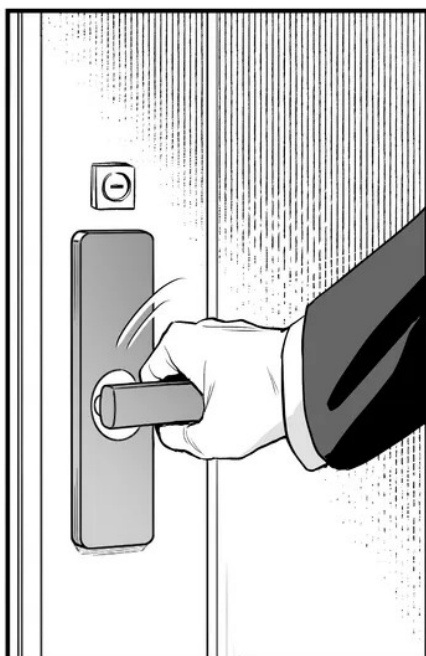
月見柚月の欲望に
完全に火がついた













魔法を習熟していくことで
服装の一部を
思い通りに消すことが
可能になる。



CHARACTER



月見柚月(つきみ ゆづき)

「元」魔法少女であり、史上最も早く魔法少女となった女性。
世間からは「初始の月(はじまりのつき)」と称されている。

物腰は柔らかく、落ち着いた印象を与えるが、その優しさの奥に秘められている本性は、まさに“母性の怪物”。過剰なまでの庇護欲と占有欲が、彼女が魔法少女となったことでさらに増幅される、それが彼女の主要な欲望である。

悠真の継母となってからは、彼を溺愛するようになり、その愛情は常軌を逸するほどにまで及んでいる。悠真から向けられる数々のわがままで、色欲的な要求に対しても、基本的には半ば押し切られる形で受け入れてしまう。ただし「母親」として果たすべき義務と責任に関しては、なぜか強いこだわりを見せる一面を持つ(例：学業)。



新田悠真

ごく普通の中○生で、筋金入りの魔法少女オタク。
黄色の魔法少女「月見柚月」の熱烈なファンでもある。

その憧れの存在が、ある日突然自分の継母になったことで、彼の心境は「夢が叶った喜び」と「現実があまりにも複雑すぎる困惑」の間を行き来することになる。

感情に流されやすく、内なる衝動を抑えきれないこともしばしばだが、本人はそれを本気で反省するつもりはあまりない様子。現在、彼が密かに抱えている最大の悩みは、なかなか背が伸びない、その小柄な体格である。



ラビー

高次元から来た魔法の生物。
少女と契約を結び、魔法少女になることを使命としている。

軽薄でおどけた口調、どこか人を小馬鹿にした態度が特徴。可愛らしい話し方で油断させ、かつて月見柚月を見事に騙して契約を結ばせた——正真正銘のクズ系マスコットである。

今回は「愉快犯」的なスタンスで悠真の件に介入。手助けするふりをしつつ事態を面白がって観察し、ついでに月見柚月が魔法少女の“副作用”に延々と悩まされるよう仕向けている。



父親

長年にわたり海外出張が続いている。
基本的に、家の中では「いないもの」として扱って差し支えない存在。

あとがき

みなさん、こんにちは。珍緑です！
このたびは本作をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

本作は『元魔法少女』シリーズにおける、
黄色の魔法少女をヒロインにした物語の第2弾となります。

正直なところ、前作はページ数や制作期間の都合もあり、
描ききれなかった部分が多く、少し心残りがありました。
そのため今回は、未完だった流れを引き継ぎつつ、
あらためて「魔法少女」というテーマに立ち返り、
月見が魔法少女の衣装を身にまとったさまざまなプレイを
重点的に描いています。

とはいえ、制作前に体調を崩してしまい、
約2か月間、強い疲労状態が続いていました。
今回の40ページという作業量は、正直なところ
完全に個人のキャパシティを超えていました……orz

TRY方言さんとムシさんの多大なご協力がなければ、
この本は確実に落としていたと思います。
お二人には本当に、命の恩人レベルで感謝しています！

次回作が月見の続編になるのか、
それとも新キャラクターの物語になるのかは、
現時点ではまだ未定です。
そのあたりは、未来の自分にゆっくり悩んでもらうことにします(笑)。

最後になりますが、
これまで応援してくださった皆さまに、あらためて感謝を。
今回の作品も楽しんでいただけたら嬉しいです！

- 発行 COMEX
- 作者 珍緑
- 協力 TRY方言、ムシ、みずきひとし
- 印刷 大陽出版

2026年2月22日

サークル、通販情報



English translations exclusively available through J18